

公演と 舞踏のある街 秋田市文化創造館パートナー事業

写真展 イザベラバードの久保田

舞
踏
劇

イザベラバードの
久保田紀行



挿絵・うすい紀子

土方巽の直弟子小林嵯峨を迎えて 3幕一挙に通し公演します。

明治11年、大英帝国の依頼を受けて日本各地を旅行した、冒険家イザベラバードと通訳の伊藤鶴吉が旅行の途中で見聞きた秋田での出来事やその時の心理状況などを舞踏で表現する、土方巽の生地ならではの意欲作…

【秋田の身体】

NPO法人土方巽記念秋田舞踏会のメンバーで構成される舞踏研究グループです。2016年、和栗由紀夫舞踏公演に共演したことで結成。毎月数回コミセン等に集まり練習を重ね、毎年のように舞踏イベント、月例会で「病める舞姫」などをテーマにした舞踏作品を発表している。

【スタッフ】演出：サトウミツコ・曾我傑 ナレーション：カガマリ
振り付け：サトウミツコ 今野日音琉 映像：高橋剛、小森一太
音響照明・音楽：曾我勝・OVO 衣裳協力：尾花賢一・佐藤毅

【キャスト】イザベラバード：さとうみつこ・伊藤鶴吉：松野輝大・他秋田の身体

特別出演 小林嵯峨

土方巽の直弟子小林嵯峨氏が花嫁に扮し、こっそり参列していた「久保田100物語」に登場する妖怪たちと共に踊ります。

1969年舞踏家土方巽に師事、1975年まで播儀大踏艦にて修行、芦川羊子、玉野黄市、和栗由紀夫らと共に白桃房などで活動。1975年立花隆一と共に独立「彗星クラブ」を立ち上げるが立花隆一の死とともに解散。

1995年、弟子を携え「小林嵯峨+麒麟」を発足、同年「小林嵯峨+NOSURI」と改名。現在国内外で活躍、舞踏公演多数。



公演舞踏劇 開催日時：2021年12月4日(土)
開場13:00 開演13:30~14:50 全席自由
会場：秋田市文化創造館スタジオA 要予約当日精算のみ
定員70名 入場料1500円(学生700円・小学生以下無料)



写真展「舞踏のある街」

写真家 菅野 証 の視点

アジアトライAkita千秋芸術祭

写真集「谷口雅彦撮影・病める舞姫東北歌舞伎計画秋田公演」より

舞踏の原風景「病める舞姫」散歩

会期：2021年11月28日(日)~12月6日(月)

10:00~20:00(最終日17:00まで)

会場：秋田市文化創造館スタジオA3 入場料 無料

特別企画 (12月4日公演終了後、15:00~17:00)

「アジアトライAkita千秋芸術祭」DVD鑑賞会
無観客開催になった今年の祭典を文化創造館の大型モニターで、みんなと一緒に鑑賞しませんか。入場無料予約不要

助成：秋田市・秋田市文化創造館・協力：慶応義塾大学アートセンター
後援：秋田県文化振興課・秋田県教育委員会・秋田市教育委員会
(一社)秋田県芸術文化協会・公立大学法人秋田公立美術大学
秋田魁新報社・朝日新聞秋田総局・NHK秋田放送局・ABS秋田放送・CAN秋田ケーブルテレビ・FM秋田

主催：連絡先：NPO法人土方巽記念秋田舞踏会 (米山)
連絡電話 090-9033-8022 mail:hijikata-akita@live.jp
秋田市羽州街道歴史まつり協力事業 秋田市文化創造館パートナー事業
~あきた芸術劇場の開館を応援します~



舞踏劇「イザベラバードの久保田紀行」

イザベラバードと日本奥地紀行

1831年、イギリスに生まれる。1856年、父親の死をきっかけにヴィクトリア・レディ・トラベラー（女性旅行者）になり世界中を旅する。明治11年7ヶ月間をかけて日本を旅した。旅は英国公使ハリーパークスが企画立案、アーネスト・サトウが実務的な手配を行った。日本での旅の記録は800頁に登るが、その内東京から蝦夷までの道中を記録したものが日本奥地紀行である。

1幕

明治11年7月18日、山形県金山から院内に入ったイザベラバードと通訳の伊藤鶴吉はここに一夜泊ります。湯沢、横手を過ぎる道すがら、貧しい農民の姿と暮らしを眼にします。戊辰戦争で全土が戦場になった秋田県、兵士たちの必死の抵抗で県都秋田市（久保田）は戦火を免れたものの、農村部の荒廃は激しく農民たちは貧しい暮らしに喘いでいました。

2幕

神宮寺から船に乗り、秋田市に入ったバードは上等な宿屋に泊まり、結婚式、秋田県病院、秋田県師範学校、県営機業場などを見学しました。大英帝国の命を受けて、日本各地を視察する旅に出たバードが眼にしたのは日本人の民度の高さでした。忠実な従者であった伊藤青年も強烈な愛国心の持ち主だったと書いています。

2幕では、バードと伊藤青年の心の葛藤を舞踏で表現します。

3幕 結婚式の場面

特別出演 舞踏家 小林嵯峨

バードは宿の女将の案内で念願の結婚式を見学します。彼女は結婚式の様子を女性らしい観察眼で衣装や髪型や什器、作法にいたるまで詳細に書いています。又、当時の花嫁のおかれた立場を「女大学」をもとにMマクラウド（スコットランドの貿易商）が翻訳した「日本の婦徳」を引用して研鑽しています。近代化を急いでいた日本でしたが、封建的なしがらみの中で抑圧されている女性たちの姿をバードは鋭く指摘しています。小林嵯峨さんには花嫁姿に隠された女性の苦しみや悲しさを舞踏で表現していただきます。



大きな感動を呼んだ過去2回の公演！！



第一回公演 1幕 9月5日 千秋公園



第2回公演 2幕 10月3日
赤レンガ歴史郷土館

舞踏のある街「写真展」

写真家菅野証の視点

「アジアトライAkita千秋芸術祭」

写真家谷口雅彦

「舞踏の原風景「病める舞姫」散歩

舞踏の創始者にして不世出の舞踏家土方巽が生まれ、20年間暮らした街、秋田市は日本海に面し、広大な田園地帯に囲まれた城下町久保田の文化を色濃く残しながら、明治以降、県都として発展しました。古今東西の文化と暮らしが混在されたこの街で生まれ育ったことが、土方巽の多様な表現を内包する舞踏を生んだといっても過言ではないと思います。

毎年、9月初旬開催される「アジアトライAkita千秋芸術祭」には世界と日本各地から舞踏家、モダンダンサーなど様々なジャンルのアーティストが「舞踏の聖地」を目指して集まります。

2019年と2021年、このイベントの撮影を依頼した秋田市在住の写真家菅野証氏と2017年秋田市に集った土方巽の直弟子や関係の深い舞踏家達を撮影した谷口雅彦氏の写真を展示、又、銭谷均氏による7日間の土方巽の舞台「疱瘡譚」の写真を展示します。



東北歌舞伎計画秋田公演



1st 谷口雅彦
2nd NPO土方巽記念秋田舞踏会

原作 土方巽「病める舞姫」

